

震災後の福島：2つの物語

無料映画上映会 in 三重

[伊勢] 2018年10月19日(金) (13:15開場)

場所: いせトピア 文化交流室 (定員:50席)

〒516-8520 伊勢市黒瀬町562-12

電話: 059-621-0900

[四日市] 2018年10月20日(土) (13:15開場)

場所: カルチャー三浜 視聴覚室 (定員:90席)

〒510-0845 四日市市海山道町1丁目1532-1

電話: 059-348-5380

注: 予約は必要ありませんが、定員になり次第受付を終了いたします。時間に余裕をもってお越し下さい。心よりお待ちしております。

1本目: 13:30~ (65分)

春よこい ~熊と蜂蜜とアキオさん~

奥会津のマタギ猪俣昭夫、金山の自然と共に生きる感動の物語

舞台は福島県奥会津の金山(かねやま)町。2011年3月11日東日本大震災・原発事故の影響は、130キロ離れた金山町の自然にも降り注いだ。野生生物をはじめ、観光資源であるヒメマスまでもが汚染された。

ここに暮らすマタギ猪俣昭夫は、生き物の猟をしながら汚染された山、川、湖と向き合い、元の金山町の自然を取り戻すべく献身的な日々を送っている。

マタギの生業は熊を撃つことだけではない。山の神を敬い、おきてに従い熊を撃つ。そして、人と自然が共に暮らす術をマタギは教えてくれる。これからのマタギは何をすべきか。若者を自然界に誘う新しいマタギの世界をこの奥会津に見た。

原発事故以来、世界中が自然との共生へと歩み始めた。自然とは何か。猪俣昭夫は、黙々と自然の大切さを説いた。やがてすべてが戻る日を願い、金山の急峻な山を見上げた。

企画・製作・配給: ミルインターナショナル <http://www.miruphony.com>

2015年 / 65分 / Japan © 安孫子亘



2本目: 15:00~ (95分)

飯館村の母ちゃんたち 土とともに

原発事故から5年—古居みずえ監督が描く

へこたれない母ちゃんたちの愛しき友情ストーリー

菅野榮子(かんの えいこ)さんは79歳。孫に囲まれた幸せな老後を送るはずが、福島第一原発の事故で一転する。榮子さんが暮らす福島県飯館村は全村避難となり、ひとりで仮設住宅で暮らすことになった。支えは親戚であり友人の78歳の菅野芳子(かんの よしこ)さんだ。芳子さんは避難生活で両親を亡くし、ひとりで榮子さんの隣に移ってきた。「ばば漫才」と冗談を飛ばし互いを元気づける、2人の仮設暮らしが始まった。

榮子さんの信条は、食べるものは自分で作る。ふたりで畑を耕し、トマト、キュウリ、芋、大豆、大根など様々な作物を収穫する。かぶや白菜の漬物、おはぎ、にんじんの胡麻和え…「おいしいよ」と笑顔で食卓に手料理を並べる。村の食文化を途絶えさせたくない、昔ながらの味噌や凍み餅(しみもち)の作り方を、各地に出向いて教えるようにもなった。

飯館村では帰村に向けた除染作業が行われている。だが高い放射線量、変わり果てた風景…。ふたりは先の見えぬ不安を語り合い、泣き笑いながら、これからを模索していく。

監督の古居みずえ氏は30年近くパレスチナの取材を続けている。特に女性や子どもに焦点をあて、『ガーダパレスチナの詩』『ぼくたちは見た-ガザ・サム二家の子どもたち-』など個人や家族に密着したドキュメンタリー映画を発表してきた。本作でも、故郷を奪われた哀しみを抱えながら、たくましく生きる女たちを丁寧に見つめていく。

原発事故から5年、未だに10万人が避難生活を続ける。避難の長期化による孤立や分断が深まるなか、私たちに何ができるかを本作を通じて考えてほしい。

2016年 / 95分 / Japan © 古居みずえ

製作: 映画「飯館村の母ちゃん」制作支援の会 <http://www.iitate-mother.com>



お問い合わせは、上映会主催者 クレアリー寛子まで Email: hcrary@freestroke.net 電話: 050.5806.9984